



## おだのぶなが きょう ほご 織田信長はなぜキリスト教を保護したの

### せんきょうし なんばんぶんか きょうみ 宣教師がもたらす南蛮文化に興味をもった

1543年、種子島に流れ着いた中国船に乗っていた、ポルトガル人によって、日本に初めて、鉄砲が伝えられました。1549年には、スペイン人宣教師ザビエルが、鹿児島に上陸しました。このころから、南蛮（スペイン・ポルトガルや、東南アジアの国々）の品々が、日本に入ってくるようになりました。ポルトガル人宣教師フロイスから、南蛮のことを聞き、南蛮の品々をおくられた織田信長は、南蛮文化を取り入れたいと、思うようになりました。そして、フロイスらの求めに応じて、キリスト教を保護し、教会の建設に協力したりしました。しかし、信長自身は、キリスト教を信じようとは、しなかったのです。つまり、信長は、南蛮文化が日本へ入ってくるうえで、宣教師が大きな役割を果たしている、と認めていたから、キリスト教を保護しただけなのです。

### ぶっきょうとしゅうだん くる ぶっきょう 仏教徒集団に苦しめられたため、仏教をにくんだ

信長が京都に入ると、これに反発する、武田・浅井・朝倉・三好などの大名や、石山本願寺・比叡山延暦寺などの仏教徒集団が、協力し合って、信長をたおそうとしました。信長は、これらの敵を一つひとつ、たおしていきました。しかし、石山本願寺、伊勢（三重県）長島の一向一揆、比叡山延暦寺には、長い間、苦しめられ、多くの武将・兵士が戦死しました。そのため、信長は、仏教に対して、強いにくしみをもちました。信長がキリスト教を保護したのは、仏教に対するにくしみの裏返しではないか、ともいわれています。（監修・田代 脩）

